

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡県清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・馬場 智事務所長着任のご挨拶 ・転任のご挨拶 ・平成28年度 清水港湾事務所事業概要 ・ル・ソリアル下田港入港
- ・新興津防波堤完成 ・清水港・みなと色彩計画の認定証授与式 ・春の海 港で体感 清水港の魅力 ・御前崎港の新たな可能性を議論
- ・シリーズ「モノから見える清水港」①(全5回) ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑤(全7回)

馬場 智事務所長着任のご挨拶

この度、4月1日付けで、清水港湾事務所長を拝命いたしました。中部地方整備局管内での勤務は、今回が初めてですが、多くの経済界・地元自治体の方々が熱意を持って地域の再生・活性化に取り組んでおられるこの地で、これから一員として仕事ができることを大変嬉しく思っています。微力ではありますが、どうぞ、よろしく願いいたします。

静岡県をはじめとする中部圏は、「モノづくり」や「観光」などの産業基盤に恵まれています。一方、激動する世界の中で、熾烈な国際競争にさらされています。例えば、自動車産業は、増大する海外の需要獲得のため、国内の余剰生産能力を輸出に振り替えるなどの機能再編を迫られています。また、近年急増するクルーズ船は、2020年の目標であったクルーズ船による訪日外国人100万人を5年前倒しで達成、政府の目標設定も同年500万人を目指すこととなりました。競争に打ち勝ち、国益を獲得するうえで、こうした変化に如何に早く対応出来るかが、重要なカギになると思います。最後に生き残るのは、強い者でも賢い者でもなく、変化できる者であると、ダーウィンも言っています。10年後、20年後のこの地域の「モノづくり」や「観光」のあり方を見据えつつ、世界の変化に対応した「みなとづくり」をスピード感を持って進めていきたいと思えます。また、至近に発生の可能性が指摘される南海トラフ巨大地震への備えも待たなしの状況にあります。東日本大震災から5年が経過しましたが、ハードのみならず、BCPなどのソフトの取り組みも含め、気を緩めることなく、産学官民の関係者の皆様と益々の連携強化を図っていききたいと思えます。今後、職責を果たせるよう尽力いたしますので、皆様のご指導をよろしく願いいたします。



《馬場 智 所長》

《転任のご挨拶》 前 清水港湾事務所長 加賀谷 俊和

4月1日付け異動により清水港湾事務所長退任となりました。管内の港湾に関わる皆様には、とりわけ直轄事業の実施にあたり、御理解と御協力を賜りありがとうございました。

3年2ヶ月間の在任期間中には、平成25年5月の新興津第2バースの供用、そして、平成27年度までに新興津防波堤の延伸事業が完了し、お陰様で新興津コンテナターミナル整備事業の一つの区切りを迎えました。また、平成27年5月には、(一社)日本港湾協会の第88回定時総会の清水での開催に関わり、全国の港湾関係者の記憶に残る会議・イベントが実施できたことも印象深く思い出されます。この他にも、港の賑わい・良好な景観を創出するためのイベントの実施、客船の受入体制整備、老朽化対策、耐地震・津波への備えの拡充等、様々な管内を取り巻く課題に関わり、課題解決に向けて、今後に生かされる貴重な経験を積むことができました。私は異動になりましたが、清水港湾事務所は引き続き地域の頼られる事務所として様々な諸課題に取り組んで参ります。後任ともども今後ともよろしく願いします。

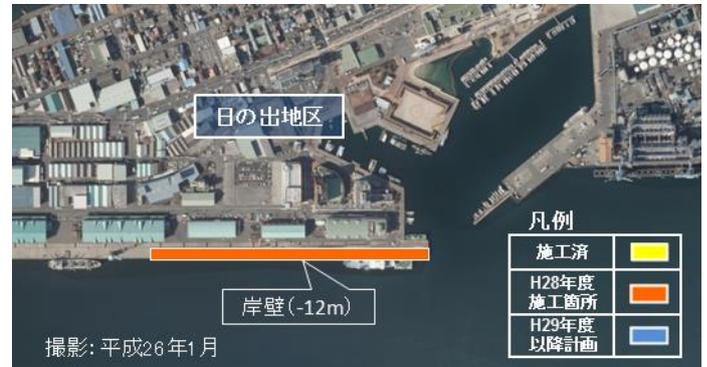
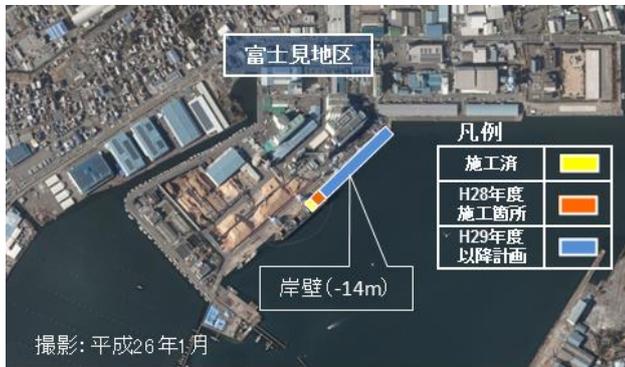
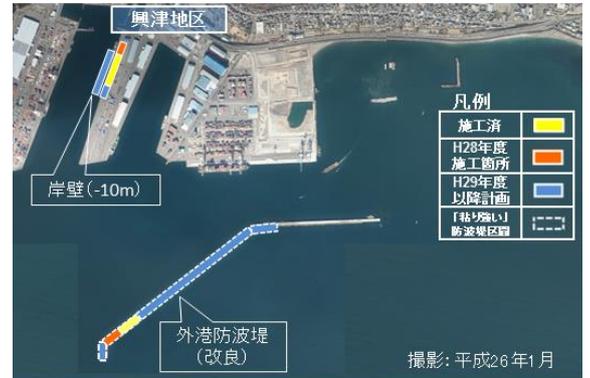
平成 28 年度 清水港湾事務所事業概要

当事務所では、新たな物流・人流需要を捉え、効率的で信頼性の高い港湾サービスが提供できるよう、港湾施設の機能向上、既存岸壁の老朽化対策、耐地震・津波性能の強化などを各港湾で進めて参ります。

清水港

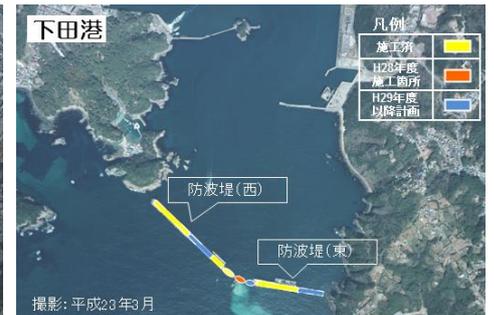
国際拠点港湾の清水港については“大規模地震・津波への対応力強化”として外港防波堤の「粘り強い」構造への改良、“港湾施設の老朽化対策”として興津地区岸壁（水深10m）、富士見地区岸壁（水深14m）、日の出地区岸壁（水深12m）の改良を行います。

今年度は特に、日の出地区岸壁について、大型客船対応としての係船柱設置等受入環境整備を進めて参ります。



御前崎港・田子の浦港・下田港

重要港湾の御前崎港と田子の浦港、および避難港の下田港については引き続き事業進捗を図って参ります。
（【御前崎港】防波堤（東）整備と防波堤の「粘り強い」構造への改良 【田子の浦港】国際物流ターミナル整備としての航路泊地浚渫 【下田港】避難港としての防波堤整備）



下田港史上初！ クルーズ客船入港

4月4日(月)、フランス客船会社ポナン社が所有するル・ソリアルが下田港史上初のクルーズ客船として入港しました。同船は全長約142m、総トン数10,700トン、乗客定員264人。2013年に就航した「ガストロノミックシップ」(食通の船)といわれる高級クルーズ船。

下田港内に停泊後、乗客はテンドーボートを使って上陸し、下田市内の歴史散策などの観光を楽しみました。

史上初の入港の詳細は、次回 126 号で紹介します。



《防波堤沖合から見たル・ソリアル》

新興津防波堤完成

平成 28 年 3 月に新興津防波堤（延長 700m）が完成しました。先端部に設置した灯台も無事海上保安部に引き継がれ、本格運用される運びとなりました。

この防波堤は、新興津コンテナターミナルに着岸する外航コンテナ船の荷役が安全に行えるよう、港内を静穏にする目的で整備してきた港湾施設です。

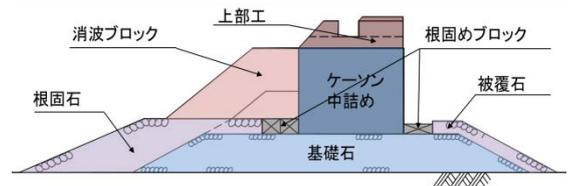
新興津コンテナターミナルは第一岸壁が平成 15 年に供用開始、引き続き第二岸壁が平成 25 年に一部供用開始したことで 2 隻同時着岸による荷役が可能となりました。

新興津防波堤はそれから約 3 年遅れての完成となりましたが、これではやく港湾計画の静穏度（≒荷役稼働率）が確保できることとなります。

清水港は、コンテナ取扱貨物量が全国 7 位（2014 年速報値）の港であり、今回の防波堤完成で荷役効率や船舶稼働率が向上し、県内経済がますます活発になることを願っております。



《新興津防波堤全景》



《新興津防波堤断面図》

清水港・みなと色彩計画の認定証授与式

3 月 16 日（水）に静岡市清水区内の清水テルサにて、平成 27 年度「手づくり郷土（ふるさと）賞」の認定証授与式を行いました。

当事務所管内からは、清水港の景観形成の取り組みを 25 年間にわたり行ってきた、「清水港・みなと色彩計画」が大賞部門に認定されました。

平成 27 年度の「手づくり郷土賞・国土交通大臣賞」は、全国で 22 件が選定され、中部地方整備局管内で 2 件、清水港からは、「清水港・みなと色彩計画」が大賞部門に認定され、同協議会委員、静岡市議会議員、多くの協力企業・団体が参列した授与式となりました。

授与式では、守屋正平中部地方整備局副局長より、「清水港・みなと色彩計画推進協議会の望月薫会長（アオキトランス(株)代表取締役会長）と、同協議会アドバイザー会議座長である東恵子委員（東海大学海洋学部教授）に認定証と記念品の盾が授与されました。

また、東恵子委員による活動報告も行われ、協議会創設以来、一貫して法令化を図らず、産官学民による協働の取り組みによって、富士山などの自然景観に調和した色彩で清水港の景観形成を進めてきた 25 年間にわたる取り組みについて発表がありました。

＜参考＞

手づくり郷土（ふるさと）賞は、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指し昭和 61 年度に創設され、平成 27 年度で 30 回目の開催となる国土交通大臣表彰です。



《認定証及び記念品(盾)の授与》

（左から）

守屋副局長、望月協議会会長、東アドバイザー会議座長



《出席者 集合写真》

春の海 港で体感 清水港の魅力

3月25日(金)、我が国の経済にとって重要な役割を担う「清水港」について、地元の皆様に身近に感じていただくため、県内の皆様を対象とした清水港見学会を開催しました。

当日は、晴天に恵まれ、ご家族やお孫さんを連れた年配の方など、約 140 名の参加をいただきました。

清水港内遊覧船「バイプロムナード号」に乗船し、海上から普段は見るのが難しいコンテナターミナルの荷役作業や富士山と調和した美しい清水港の魅力的な空間を体感しながら、その魅力向上に貢献している取組を紹介しました。

清水港は、港湾区域が小さい港でありながら、コンテナターミナルやエネルギー関連施設など様々な役割を持った施設が配置された「地域産業を支える物流拠点」であると同時に、「富士山と港が調和した美しい景観」、「大型客船が数多く寄港する賑わい空間」を有しており、港の重要性や役割、魅力を学ぶには最適な港です。

今回、見学に参加して下さった方々は、皆興奮した様子で、約 1 時間の港内見学を楽しんでいました。



《コンテナ荷役状況見学》



《清水港見学後 記念写真撮影》

御前崎港の新たな可能性を議論

2月14日(日)、御前崎市と当事務所の共催で、地域の賑わい拠点や観光拠点としての御前崎港の新たな魅力づくりや今後の可能性について議論する「御前崎みなとまちづくりシンポジウム」が開催されました。

当日は、港湾行政・物流・運輸・観光業事業者ら約 170 名が参加。

主催者代表の石原市長は、「賑わい拠点・観光拠点として、多くの人が『みなと』に集まり、御前崎港を賑やかにしていくにはどのような事が考えられるか、皆様と一緒に理解を深めたい。」と抱負を述べられました。

基調講演では、国土交通省菊地身智雄港湾局長が「みなとの賑わいづくり」をテーマについて講演された後、パネリスト 3 名：望月薫氏（アオキトランス(株)代表取締役会長、御前崎埠頭(株)取締役）、羽田耕治氏（横浜商科大学商学部教授）、石原智央氏（(一社)御前崎マイルプロジェクト代表理事）、コーディネーター：海野俊也氏（(株)静岡新聞社 政治部長兼論説委員）によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、①クルーズ船の利用、②誘致組織づくりの必要性、③行政(きっかけづくりとマネジメント)と民間(観光振興に必要な人材育成)との役割分担の重要性、④御前崎マリンパークを活用したテーマパーク化などについて、活発な議論が行われ、「新たな可能性のために地域が一丸となってみなとのあるべき姿について考え、具体的に行動していくことが重要」とまとめられました。



《会場の様子》



《パネルディスカッションの様子①》



《パネルディスカッションの様子②》

シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑤(全7回)

今回は、世界で最も有名な豪華客船「クイーンエリザベス」をご紹介します。

「クイーンエリザベス」(全長 294 メートル：90, 900 トン) はイギリスのキュナード社が所有する豪華客船で、2007 年に就航した「クイーンヴィクトリア」(90, 000 トン) の姉妹船として 2010 年に完成しています。「クイーンエリザベス」の名前が付けられた客船としては、初代「クイーンエリザベス」(83, 673 トン：1940 年竣工)、2 代目「クイーンエリザベス 2 (QE2)」(65, 863 トン：1969 年竣工) に継ぐ 3 代目になります。キュナード社 175 年の古き良き伝統を継承する船体は、他の 2 船と同様に、喫水線の下が赤、上が黒と白、ファンネル(煙突)は赤と黒に塗られ、正統派のクルーズ船としての威厳と格式があります。

前の 2 隻はイギリスで造られましたが、この船はイタリアで造られました。また、船籍もイギリスから、イギリス領バミューダ諸島になりました。船の船尾に書かれている地名が、その船の母港ですので、「クイーンエリザベス」には「ハミルトン」と書かれています。キュナード社は現在もイギリスです。ではなぜ「QE2」のように「サウザンプトン」ではないのでしょうか。船も人の国籍と同じように、船籍のある国の法律によって様々な制限や制約を受けます。例えば、大きさによって課税される税額や船員の待遇・規定に関しても、国によって大きく変わります。リベリアやパナマ船籍の船が多いのは、日本や EU、アメリカなどに比べ、船舶に関する税金が安く、船員の環境や待遇に関する規定が緩い為、船舶の維持にかかる負担が軽減されます。このように本社のある場所以外の国や地域に船籍のある船を「便宜置籍船」と言います。「クイーンエリザベス」の場合もイギリス領バミューダになった事により、「QE2」では出来なかったことが可能になりました。実はイギリス船籍の船では船内で船長立ち合いの結婚式が認められていませんでしたが、この「クイーンエリザベス」では可能になりました。クルーズ中の船内での結婚式は大変人気があるので、「伝統」と「格式」の豪華客船に新しい魅力が増えました。

最近のクルーズ船はモノ(単一)グレード制を採用する会社が多いのですが、オーシャンライナーの伝統を守るキュナード社ではクイーンズグリル、プリンセスグリル、ブリタニカと 3 クラスに分かれ、11 階から上はグリルクラス専用のフロアやレストラン、デッキなどになっています。またクイーンズグリルクラスの客室にはバスタブ、バルコニーに加え、専用のパトラー(執事)サービスが提供されるなど、豪華客船に相応しい仕様になっています。白い手袋に象徴されるイギリス伝統のホワイトスターサービスは、キュナード社の特徴の一つ。「クイーンエリザベス」船内でも、乗船した時からティータイムなど様々なシーンにおいて、ホワイトスターアカデミーでイギリス伝統の極意を教育されたクルーによる行き届いたサービスを受ける事が出来ます。

「クイーンエリザベス」の船内には、「初代クイーンエリザベス号」をモデルにした寄木細工が飾られた 3 層吹き抜けのグランドロビー、毎晩生演奏によるダンスパーティが行われ洋上随一と言われる 2 層吹き抜けのボールルームを有する「クイーンズルーム」。ミュージカルショーやマジックショーなどが行われる「ロイヤル・コート・シアター」には、オペラハウスのようなプライベートボックス席もあります。



Queen Elizabeth 総トン数 90, 900 トン
全長 294 m、旅客定員 2081 人

格式と伝統を重んじる客船ですが、昼間の時間の服装は特に制限もなく、カジュアルな服装で大丈夫です。プールはもちろん、フィットネスセンターや「初代クイーンエリザベス号」の地球儀がある 2 層の図書館、ラウンジなどで、思い思いの時間が満喫できます。夕方からはドレスコードの時間になります。「クイーンエリザベス」の船旅を楽しむには、特にフォーマルの場合、男性はタキシード、女性はパーティードレスが相応しいと思います。2014 年からワールドクルーズの途中に日本へ立ち寄るようになり横浜、神戸などへ寄港します。QE2 以来の清水港への入港の機会もそう遠くないのではないのでしょうか。ご好評頂きましたので、全 5 回から全 7 回に掲載を延長させて頂きます。次回は「コスタ・ビクトリア」をご紹介します。

このシリーズは県内で知る人が少ない「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載 5 回目です。山口博史(やまぐちひろふみ)昭和 43 年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012 年より 14 年までクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

シリーズ「モノから見える清水港」①(全5回)

『割子の弁当箱と静隆社』

ペリー艦隊下田来航後の嘉永6年(1853)、徳川幕府は「大船建造禁止令」を解除して、西洋の技術を積極的に造船にも利用するようになりました。これに伴って大型化した洋式帆船と蒸気船の導入とともに、清水湊にも変革が必要となってきました。江戸時代の清水湊といえば、巴川をやや遡った西岸に築かれた川港でした。巴川は静岡市街北側の麻機沼奥の谷から流れ出し、静清平野の山裾沿いを蛇行して清水港へ流れ込む比較的緩やかな流れの川です。しかし、河川に溜まる泥の堆積はいかんともしがたく、加えて安政の地震により巴川河口部分が隆起したことから、江戸時代終わり頃には、大型船が清水湊に入る時には満潮時をねらって巴川に進入していたと伝えられます。

さて、それやこれやで維新後の清水港周辺では、清水湊を巴川岸から外海に面した場所に移すことと、横浜開港に伴う海外貿易に対応するために清水－横浜を結ぶ定期航路を確保することが求められていました。清水の廻船問屋たちは港のインフラ整備のために「波止場会社」を、船舶の積荷取扱のために「博運会社」を設立しました。新たに築造された「波止場」は現在の水上交番前の船溜まりにあたり、当時は浪漫館の辺りまで船溜まりが入り込み、ここから沖合に留めた本船まで舢による船積みが行われました。この近代的な波止場が完成したのは明治12年(1879)6月のことで、波止場と波止場通り(現工スパルス通り)の整備、港橋の架橋などの波止場周辺の整備も同時に行われました。

一方、清水－横浜を結ぶ定期航路は、明治9年(1876)に静岡丸の天野九右衛門や清渚丸の山本佐十郎らの回漕業者が航路を開いていました。当時の日本の輸出品目のトップは何といても「生糸」であり、それに次ぐのが「お茶」だったので、横浜と茶どころの清水を結ぶ定期航路は国家的な要求でもありました。このような状況下で明治14年に設立されたのが『株式会社静隆社』でした。この会社は横浜、静岡、清水の出資者により設立され、総数226名の株主の中に清水港の回漕業者も29名いました。なお、発足時の

静隆社に所属する船舶は静岡丸・清川丸・三保丸の3隻がありました。輸出の好調に伴い、清水港で扱う積荷量も拡大したため船荷の積み降ろしは夜間にも行われていたと伝えられています。現在まで伝わる「割子の弁当箱」は深夜まで続いた港湾作業の合間に作業員に用意された弁当箱です。「静隆社」と朱漆で書かれた漆塗り弁当箱10個が木箱に納められて保存されていました。ちなみに日本の港湾中、24時間体制で荷物の積み降ろしを行ったのは清水港が初めてだったと伝えられています。



◀ 静隆社の割子弁当箱 ▶

※ コラム中では江戸時代の巴川岸に築かれたものを清水湊、明治時代以降の外海に面したものを清水港としました。また、一般的な港湾を示すときは「港」と表記しました。

※ このシリーズは「モノから見える清水港」について寄稿によるもので、今回は連載1回目です。

橋原 靖弘(ちんばらやすひろ) フェルケール博物館 学芸部長 1962年 藤枝市生まれ

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなど

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp